

平成28年度 緑苑 事業報告

I 概要

1) 利用者動向

- ・従来型特養は退所者 13 名(永眠 8 名・長期療養 5 名)と入院者の変動で利用実績 92.7%に留まった。
- ・地域密着特養は退所者 3 名(永眠 2 名・在宅復帰 1 名)と入院者の変動で利用実績 95.0%だった。
- ・短期入所は多数の新規利用者やリピーターの利用期間が定着し利用実績 113.9%と利用が安定した。
- ・養護は 3 年ぶりに入所件数が退所件数を上回った(入所 11 名、退所 4 名)。高齢化・重度化が進む一方で、入所 11 名のうち半数が 60～70 歳代で、平均年齢が若干若返った。
- ・自立支援ショートは実利用者数が 24 名で稼働率は 16.4%となり毎年減少傾向である。

2) 職員動向

- ・職員体制は、年度当初 113 名(正職員 56 名、再雇用 2 名、準職員 55 名)であった。年度内の常勤職員の退職 6 名、入職 3 名、一時的な休職者 2 名で、前年に比べ離職は減ったが、特に介護員の補充に苦慮した。

3) 平成 28 年度事業計画についての報告

- ・昼食会にきた方々が施設の映画会やサークル活動等へ参加(述 370 人)し、地域の居場所として定着しつつある。
- ・快適で心地よい暮らしの一環として快適な食に取組み、口腔リハビリにより嚥下状況を知り、食事形態や援助方法のアドバイスを受け継続した援助が行えた。
- ・地域包括支援センターでは、相談件数(5,571 件)も年々増加している。家族問題・困窮問題・在宅療養等、高齢者単独の介護上の課題ばかりでなく、多種多様な生活課題に迅速な対応が求められる相談が増えている。
- ・東館空調設備改修工事 10～12 月初旬の約 2 ヶ月間掛けて、個室はエアコン、共有部は電気チラー式ファンコイルで冷暖房を改修した。

4) 平成 28 年度重点の動き

- ・昼食会(年間 4295 食)は 1 日平均 12 食とほぼ定着し、昼食会後のサロンの居場所につながっている。
- ・東京都の実地検査が 9 月に実施、運営・サービス・経理への特段の指摘事項はなかったが、事故・ひやり報告の対応策が明確でない等の指導があり改善に努めた。

II 事業別動向

区分	成 果	課 題
特養	居室担当者を中心に他部署、各研究会と連携し利用者との関わりを強めた。また生活目線を持てる職員育成を行い充実した生活と感じていただける個別援助に繋げた。	利用者との関わり、職員育成、利用者の情報共有の継続の強化が必要。
短期入所	家族及びケアマネと連携した支援と柔軟な利用対応に努め、安定した利用につながった。	特養との協働。情報共有の発信と周知体制づくり
養護	居室の衛生面を含めた環境整備は定常業務となった。清掃、片付け、リネン交換などのほか居室内の設備にも目を向け、必要箇所は修繕も行った。	支援方法の明文化が未完成。要介護ではない方との関わりが薄い。
自立支援ショート	緊急利用が主となり、DV 被害者・病院から退院後の体力回復目的など柔軟な受け入れを行った。	対象像の把握と各包括への情報提供及び理解。
地域包括支援センター	小・中学校での認知症サポーター養成講座実施、自治会や老人会、地域のイベントや集会に積極的に参加し、地域との関わりを深めることが出来た。	地域の方々の力を地域で活かしていただく為の取り組みが必要。
事務	関係部署と連携を図り、適正な財務、請求、庶務業務を行い、安定した事業運営に貢献した。	適正なサービス区分別収支、サービスの向上
管理	9 月に東京都実地検査を受け、文書指摘はあったが、口頭による指導内容を共有化し改善を図った。 年度末、防犯対策補助をうけ、防犯カメラを 4 台設置。	適正な人員と職員の育成と定着化。

III リスクマネジメント

1) 苦情・第三者評価

- ・苦情 2 件 速やかな解決に至った。第三者評価を 10 月に実施し、利用者の声(満足度)を把握した。

2) 感染症等予防・蔓延防止の取組

- ・インフル予防接種や感染症を持込まない、持出さない対策に取組み、施設内利用者の発症はなかった。

3) 緊急対応・事故

- ・事故 27 件(転倒・誤薬等)、発生要因と対応を検証、事故防止研修により共有し再発防止に努めた。

4) 防災・防犯

- ・火災想定、大規模地震想定等の反復訓練を行い災害の備え意識を高めた。また、防犯対策の取組みとして、防犯カメラ 4 台設置や不審者対応マニュアル作成し共有認識を図った。

5) 勤務管理

- ・各部署の勤務状況を朝夕礼で確認調整をした。超過勤務実態を部署責任者が月毎に把握した。

IV 事業別年間の実績概要

1) 入所部門

(単位：名)

	定員	利用者（実施数）				入院者数		新規利用		利用終了		平均		待機者
		延べ人数	月平均	稼働日数	利用実績 (%)	実人数	月平均	実人数	月平均	実人数	月平均	要介護度	年齢(歳)	
従来特養	60	20306	1692	365	92.7	28	2.3	12	1.0	13	1.0	3.9	86.3	204
地域密着特養	20	6934	577	365	95.0	7	0.5	3	0.2	3	0.2	3.5	87.4	91
短期入所	10	4157	346	365	113.9	—	—	38	3.1	—	—	2.7	87.4	—
養護	50	16511	1375	365	88.9	13	1.1	11	0.9	4	0.3	1.8	84.0	
自立支援	4	239	20	365	18.0	—	—	24	2.0	5	0.4	0.2	79.5	

※待機者は、申込書を提出したことがある者を言う。

2) 支援センター部門

(単位：名)

		利用者（実施数）				新規利用		利用終了		平均	
		延べ人数	月平均	年間実人数	月平均実人数	実人数	月平均	実人数	月平均	要介護度	年齢(歳)
地域包括支援センター（総合相談）		5571	464.2	684	57	135	11.2	120	10	—	—
介護予防推進事業	元気アップ	5515	459.5	259	21.6	259	21.6	259	21.6	—	—
	第1期短期集中3回教室(×8種)	442	442	169	169	169	169	169	169	—	—
	第2期短期集中3回教室(×8種)	428	428	173	173	41	3.4	173	173	—	—
	第3期短期集中3回教室(×8種)	409	409	157	157	20	1.7	157	157	—	—
地域デイ		1400	116.6	47	3.9	11	0.9	5	0.4	—	—
予防居宅		941	78.4	110	79.5	36	3	30	2.5	1.6	80.9

3) 苦情・事故報告

	延べ件数	月平均件数	解決件数	未解決件数	対応中件数
利用者からの苦情	0	0	0	0	0
事業所からの苦情	0	0	0	0	0
職員からの苦情	0	0	0	0	0
その他苦情	2	0.1	2	0	0
施設内事故	27	2.2	27	0	0
施設外事故	0	0	0	0	0

